

健やかに暮らすためのお手伝い、をできたら……

「はり姫」では地域の方に向けて、アクリエひめじと連携して「はり姫健康講座～健やかに暮らすためのお手伝い」を開講しています。

食事がおいしくない、家の中でもよく転ぶ、家に引きこもり気味になる、よく眠れない、すぐに疲れる…… はり姫健康講座のお話が、日常生活を邪魔するちょっとしたことを解消し、健やかな暮らしへのヒントになるかもしれません。ぜひお話を聞きにお越しください。

開催スケジュールは「はり姫」ホームページをご覧ください



この胸の痛みって、もしかしたら心臓が悪いのかも?

「女性、関節痛で受診」～腎臓と長寿～

中高齢者の動脈硬化からつながる病気と動脈硬化の予防・改善のための運動

たとえば
こんなお話をしています。
(2023.4～11テーマ)

血圧測定時に見られる自動血圧計のエラー～よくある不整脈、心房細動について～

高齢者でも治る認知症～人生100年時代の脳神経外科～

安心して子育て・孫育てを楽しむために
「50歳代女性、消化器症状で受診」

「はり姫健康講座」特別企画

2023年9月2日(土)、「はり姫健康講座」のスペシャルイベントとして「こども向けワークショップ こどもも救える命 心肺蘇生とAED」を開催しました。

集まったのは、小学4年生と中学3年生の32名。「はり姫」の医師、看護師、救急救命士らと一緒に、「もしも」のときに備えて心肺蘇生(胸骨圧迫)やAEDを使った救命措置の方法を楽しく実践的に学びました。

終了後は、救急車やドクターカー、DMATカーを見学。子どもたちは興味津々でかっこいい救急車両を見学し、「お医者さん」や「看護師さん」のユニフォームを身に付けて写真撮影する姿も。

「もしも」のときに、行動できるように。

将来は、お医者さんや看護師になって働きたいです!

もし誰かが心肺停止になったら、絶対に助けたいと思いました!

(参加した子どもたちからの感想より)

はりひめ

No.02 2023年11月30日発行

開腹・開胸手術“だけ”じゃない。
根治“だけ”でもない。

「はり姫」の
がん治療の
選択肢。

治療による患者さんの痛みや負担をできるだけ軽く、そして安全に――

兵庫県立
はりま姫路総合医療センター

〒670-8560 兵庫県姫路市神屋町3丁目264番地
TEL: 079-289-5080
FAX: 079-289-2080
HP: <https://hgmc.hyogo.jp>

【お車で
お越しの方】

- 【姫路バイパス】
 - ・姫路南ランプから9分(3.5km)
 - ・市川ランプから7分(2.6km)
- 【播但連絡道路】
 - ・花田インターから11分(4.4km)

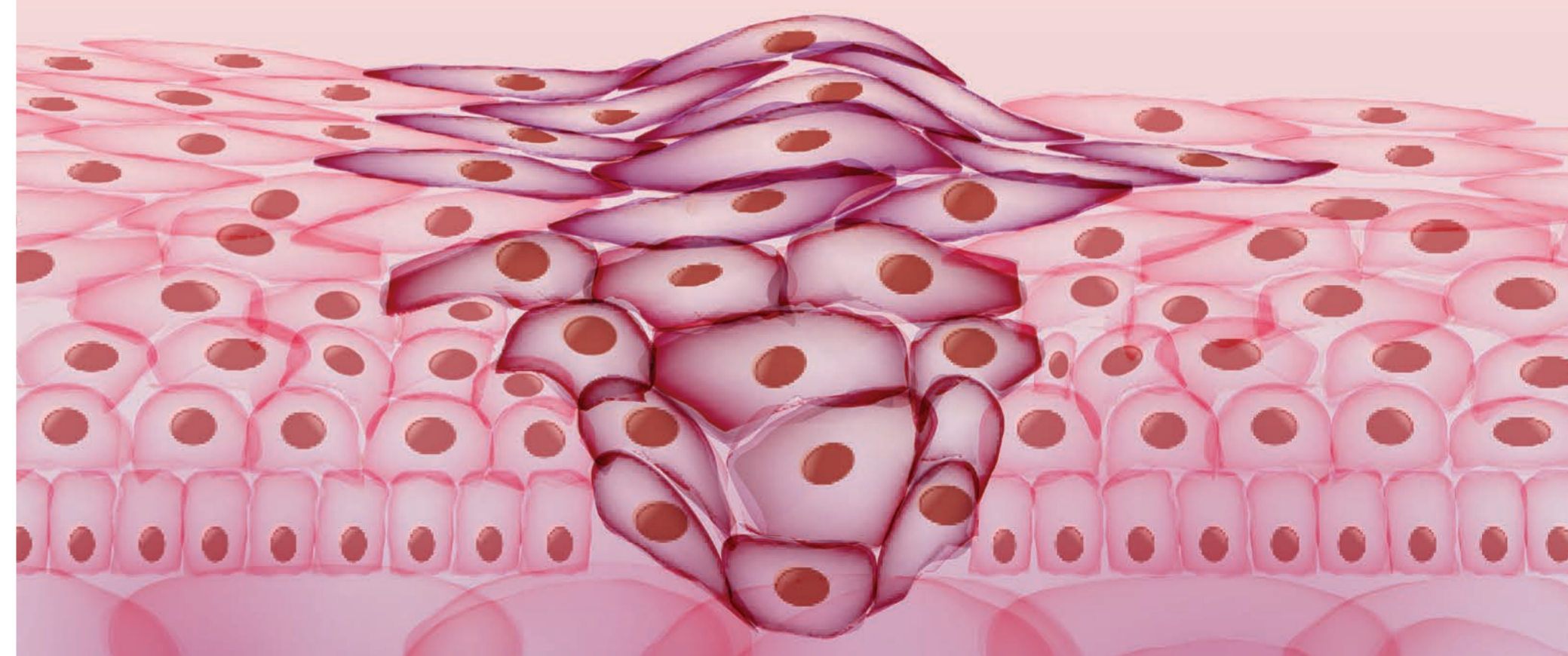
【JR神戸線】

- ・姫路駅から12分(910m)
- ・東姫路駅から9分(710m)
- 【JR播但線】
 - ・京口駅から12分(950m)

【バスで越しの方】

- 姫路駅北側バスターミナル5番のりばから
 - 25系統：日出町循環行き または 宮西町循環行き
 - 26系統：阿保車庫行き
- 姫路駅南側バスターミナル22番のりばから
 - 92系統：白浜海岸行き
 - 93系統：的形循環行き または 東山南口行き

病院北側「県立はりま姫路総合医療センター前」で降車



「早い」そして「安全」。 「はり姫」が目指す 消化管がん × 低侵襲治療。

消化管とは、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸と1本につながる管のこと。国立がん研究センターの統計によると、大腸がんと胃がんは、がん罹患数の1位と3位を占めています。

ていしんしゅう

治療で患者さんのからだにかかる負担全般を、医療用語で「侵襲(しんしゅう)」といいます。開腹・開胸手術は、大きな侵襲を伴う治療の代表格です。

治療で患者さんのからだにかかる負担全般を、医療用語で「侵襲(しんしゅう)」といいます。開腹・開胸手術は、大きな侵襲を伴う治療の代表格です。



外科・消化器外科 医師 安田 貴志

私が外科医としてスタートしたのは23年前。当時はまだ開腹・開胸手術の時代でした。四半世紀が過ぎ、消化管領域では腹腔鏡や胸腔鏡を用いた内視鏡手術(鏡視下手術)*1が全国に普及しています。

鏡視下でのがん切除は、開腹手術よりはたしかに患者さんに負担をかけない術式です。それでも、どれだけ小さかったとしても、患者さんの体に傷を入れさせていただくことに変わりはありません。患者さんに笑顔で退院していただくために、安全面は妥協できません。食道胃腸を専門領域とする医師だけで判断に迷うことがあれば、肝臓・胆道・膵臓が専門領域の医師の知見を借りることも、しばしばあります。各分野の高度かつ専門的な医療に精通した人材が揃っている、それは「はり姫」の大きな強みだと日々感じています。

「はり姫」の消化管がんの外科治療は、わりと少数精鋭だと思います。誇れるほどの人数的な厚みはないものの、内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医が3名おり、うち1名は国立がん研究センターで研鑽を積んだ経験もあります。私自身は、兵庫県内に12名いる日本食道学会 食道外科専門医の1人でもあります。

ロボット支援手術(ダ・ヴィンチ手術)

人間の手よりも精細に稼働するロボットアームを用いる内視鏡手術のこと。「ロボット手術が万能だとも思いませんが、従来の開腹手術や鏡視下手術と并列に、手術の選択肢として持つておくにこしたことはありません」(安田医師)

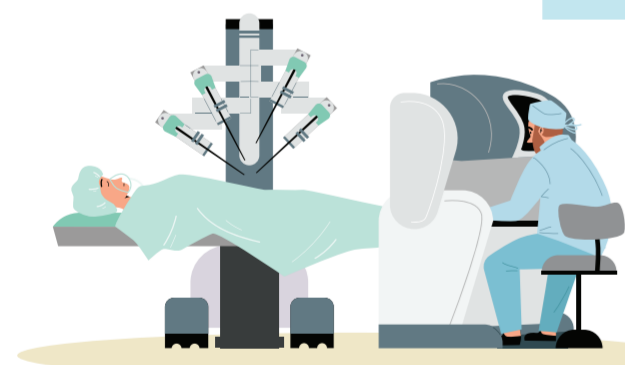
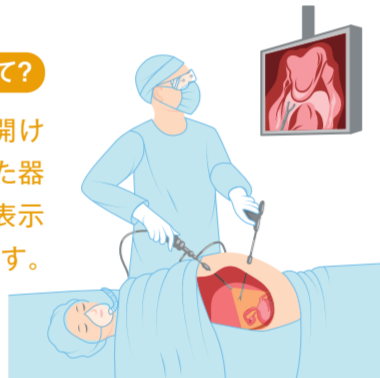
消化器内科 医師 有吉 隆佑



がんは、**早期発見・早期治療**がなにより重要です！
早くがんが見つければ、切らずにがんを治すことができますし、手術することになったとしても小さな傷で済ませられるケースが多いです。症状がなくても、基本的には毎年、内視鏡や健診を受けられることをおすすめします。

*1 内視鏡手術(鏡視下手術)って?

患者さんの体に小さな孔(あな)を開けて、そこに内視鏡や専用が開発された器具を挿入し、体内の様子をモニター表示しながらおこなう手術のことをいいます。



切らずに治す 内科的治療

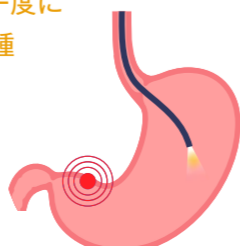
安全に、適切に。
その結果としての「早く」。

消化器内科では、早期の消化管がんの内視鏡治療*2をおこなっています。内視鏡治療というと、簡単に手軽に捉えられる患者さんも少なくありませんが、実際は技術的に難しく、合併症も発生することがあり、治療後の検査結果によっては追加の手術が必要になることもあります。治療前にその旨をしっかりと説明し、納得していただいたうえで治療に臨むよう心がけています。治療について疑問点や気になることがありましたら、担当医に何でも質問してください。早期がんの内視鏡治療の目的は、がんを適切かつ安全に切除し、手術を回避してがんを治すこと

です。手術より体の負担は少ない治療ですが、合併症のリスクを最小限に抑えることは重要で、麻酔量も少ないに越したことはありません。私は神戸大学病院で内視鏡治療のトレーニングを受けてきましたが、経験を積む過程で手順や処置具選択の無駄がなくなり、結果的に合併症の頻度低下や処置時間の短縮に貢献しています。症例の少ない施設では処置に数時間かかることもありますが、「はり姫」では30分から2時間の範囲で処置を終えることが多いです。

*2 消化管がんの内視鏡治療って?

患者さんの体にメスを入れず、内視鏡を使ってがんを剥ぎ取る治療のこと。手術に比べて痛みが少ない、回復が早いなど、体への負担が少ないのが特徴です。「内視鏡治療が受けられるかどうかの基準は、がんの大きさや深さ、一度に**取りきれられるかなど、がんの種類別に細かく決まっています**」(有吉医師)



切って治す 外科手術

大切なのは、**合併症を起こさず切除すべきものを切除して、患者さんに安全に退院していただくこと。**

放射線治療

「放射線は体を弱らせる……」
という思い込みから
放射線治療を敬遠されるのは
もったいないと思います。

放射線治療は、手術や抗がん剤治療などと並ぶ、がん治療の三本柱のひとつです。「手術ができない」とか「手術は受けたくない」といふとき、もしかしたら放射線治療がお役に立てるかも知れません。完治を目指す「根治照射」から症状を和らげるための「緩和照射」まで、放射線治療はさじ加減が可能です。「100点満点を目指すのは少々しんどくても、50点くらいを目標にするなら無理なく治療できる」という場合もありますので、治療法に迷ったり困ったりしたときには、選択肢のひとつとして主治医の先生と相談されるのがよいでしょう。とくに症状を和らげる目的で行う緩和照射は、副作用はほとんどなく、外来通院での1回の照射で治療を終了できる場



放射線治療科 診療科長 余田 栄作

合もあります。がんに伴うさまざまな症状でお困りの場合は、ぜひ検討していただきたい治療です。すべてのがんは放射線治療が有効というわけではなく、自分の病状に放射線治療が有効かどうか分らないことも多いと思います。いちど説明を聞いてみたいというだけでも結構ですので、ぜひ受診していただければと思います。

私たちがおこなう治療は、いわゆる「がんを治す」ためのものではありません。患者さんの身体的な苦痛(痛み、息切れや吐き気など)が和らぐように、がんを抱えながらも安心して日々を過ごせるように、心と体のケアをおこなっています。(もちろん、主治医と話し合って「治す」を目指すがん治療もフォローします)

緩和ケアを、最終局面を迎えた抗がん剤治療など化学療法からの「切り替え先」と捉えられている患者さんやご家族も少なくありません。QOL(Quality of Life)を考えると、がんを治す治療と並行して、いや、がんと分かったときから、ぜひお気軽に、緩和ケアセンターへの外来や入院を主治医の先生と相談してみてください。

私たちは、日本初の、疾患を問わず

緩和ケア

がん患者さんも。
がん以外の疾患で「つらい」患者さんも。

受け入れる緩和ケアセンターでもあります。緩和ケア病棟というと、がんとAIDSの患者さんに限定されるのが一般的です。しかし、「はり姫」の緩和ケア病棟では、心不全・呼吸不全・肝不全・腎不全・神経難病・外傷など、さまざまな患者さんの「つらさ」に対し緩和ケアを提供しています。がん患者さんはもちろん、がん以外の疾患で緩和ケアを必要とされている患者さん・ご家族にも広く深く対応できる体制と環境が、「はり姫」にはあります。



緩和ケアセンター長 坂下 明大

「はり姫」の緩和ケアセンター

日本初！疾患を問わず受け入れる

緩和ケア内科外来
通院による症状緩和をおこないます。

緩和ケアチーム
他の治療で入院している場合にはチームの回診により緩和ケアの提供を病棟スタッフと主治医と連携して実施します。

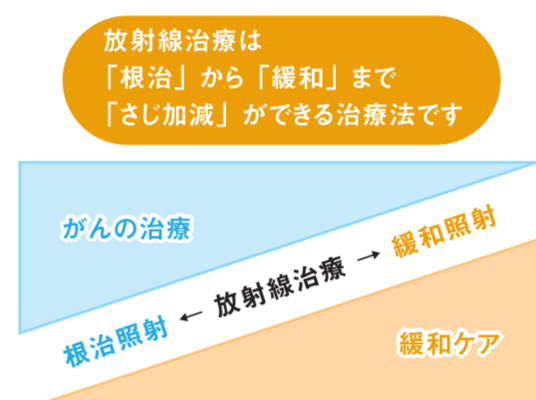
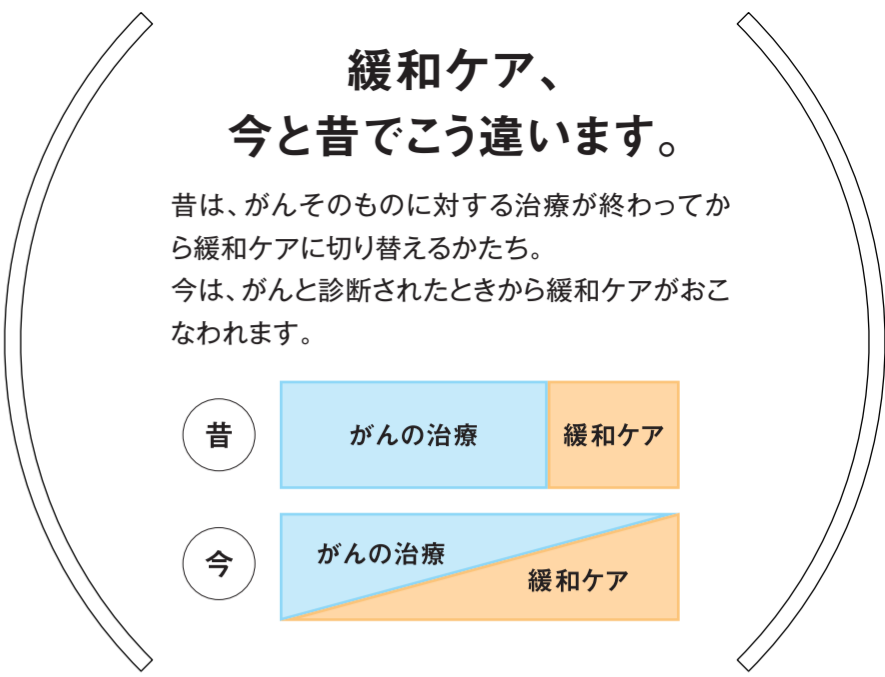
切れ目なく緩和ケアを提供するしくみがあります。

緩和ケア病棟
入院による緩和ケアの提供をおこないます。あらかじめレジストリ外来による面談が必要です。

がん相談支援センター
どなたでもがん緩和ケアについて相談できます。相談内容は相談者の了解なしに他に伝えることはありません。予約制です。

「はり姫」ではがん、非がんを問わず、緩和ケアを必要とされている方へ医療およびケアを提供しています。

緩和ケアセンターについての詳細はこちらをご覧ください。



がんと共に生きる。
「いよいよ」の前から「緩和」という選択肢を。